

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 30 日現在

機関番号：34315

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2012

課題番号：22653079

研究課題名（和文） 三項関係ナラティブ・ミーディアムの開発 - 糖尿病患者と医師の支援と教育

研究課題名（英文） Development of the medium in Triad Narrative Relationship: Support and education for clients of diabetes and medical doctors.

研究代表者

山田 洋子 (YAMADA YOKO)

立命館大学・衣笠総合研究機構・教授

研究者番号：20123341

研究成果の概要（和文）:

三項関係ナラティブ理論では、従来の二者関係の対話ではなく、三項関係、特に人と人をむすぶ媒介機能<メデイエーター（媒介者）やミーディウム（媒介物）>を重視する。三項関係理論による臨床支援と教育方法論を構築するための第一ステップとして、糖尿病医療を中心に、語りの共同生成を媒介するために効果的な「ミーディウム」(媒介物)を作成する多様な試みを行った。そして「ビジュアル・ナラティブ(視覚的語り)」を用いた「病いの語りイメージ画」の手法を開発した。

研究成果の概要（英文）:

In Triad Narrative Theory, the triad relationship, especially the mediate function – mediator or medium –, rather than the conventional bilateral dialogue, is considered to be very important. As the first step toward establishing clinical support and educational methodology by Triad Narrative Theory, we made various attempts to create the media that worked effectively in mediating collaborative narrative generation mainly in diabetic medicine. Eventually, we developed “Visual Imaging Method for Illness Narratives”.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,000,000	0	1,000,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	2,600,000	480,000	3,080,000

研究分野：教育心理学

科研費の分科・細目：心理学、教育心理学

キーワード：ナラティブ，教育ツール，支援モデル，医学教育，糖尿病，アクション・リサーチ，イメージ，病いの語り

1. 研究開始当初の背景

語りの相互行為による生成プロセスや文脈を重視するナラティブ・アプローチは、学横断的な大きな研究潮流になっており、臨床治療や支援方法としても応用範囲が広い。また、糖尿病の患者教育と新しい医療モデルの模索において、このナラティブ・アプローチが有効であると考えられることから、新たな日本発のナラティブ医療モデルを提案するという着想に至った。

2. 研究の目的

人と人のあいだをむすぶ媒介機能<メディアエーター(媒介者)やメディアム(媒介物)>を重視する三項関係ナラティブの教育・支援の新しい理論と方法論を構築する大きな構想がある。

本研究はその萌芽として、糖尿病医療をフィールドに、まずメディアムの開発を行う。ビジュアル・ナラティブやナラティブ・ゲームなど、糖尿病の患者と医師が病いや治療経験をもとに作成したメディアムを用いて、語りの共同生成を促進する複数のアクション・リサーチを行う。

医師と患者をむすぶ「治療的三項関係」、経験医師と新参医師をむすぶ「医師教育三項関係」、経験患者と新参患者をむすぶ「患者教育三項関係」など多重の教育・支援機能をもつ、新しい日本発の三項関係ナラティブ医療モデルを提案し、国際的に発信する。

3. 研究の方法

三項関係ナラティブ・ワークショップの場をつくり、「医師-メディアム(媒介物)-患者」の治療的三項関係、および「経験者-メディアム(媒介物)-新参者」の教育的三項関係など、多様な多声的三項関係をつくってナラティブ共同生成のアクション・リサーチを行う。

平成22年度は、糖尿病の当事者が体験を語るためのメディアムとして「人生イメージ地図」を開発し、ビジュアル・ライフストーリーを用いた語りの共同生成の実践を行う。平成23年度は、多声交換メディアムとしてナラティブ・ゲームを開発して、集団的な語りの共同生成を行う。平成24年度は、2年間の実践をもとに、より具体的で役に立つ医療教育プログラムを提案するとともに、イギリスの研究者と国際的コラボレーションをして理論的・方法論的検討を加える。より一般的に適用可能なモデルにして提案する。

4. 研究成果

(1) 本研究では、まずメディアム開発のために以下の3つの基礎的研究を行った(22

年度)。

「ヴィジュアル・ナラティブ(視覚的媒体を用いた語り)を用いたメディアム開発の基礎研究」イギリスのロンドン大学で開催された Medical Narrative in Graphic Novels: Comics and Medicine に参加し、先進的な取り組みを行っている諸研究の具体例を学ぶとともに国際的に研究交換した。また、マンガ、映画、イメージ画、ストーリーなど多様なナラティブの媒体を比較検討する研究を行った。ビジュアル・ナラティブのワークショップを日本心理学会で開催し、多くの研究者と意見交換しながら、ナラティブ理論と方法論を実践的に検討した。

「糖尿病患者を対象とした三項関係ナラティブ・ワークショップのパイロット・スタディ」糖尿病患者を教育・指導するため、三項関係ナラティブ・ワークショップの実践方法を探索した。DVD教材を作成して、合計10名の患者に、1回3~4人程度のグループで、その教材を用いる体験型の教育を試みた。また指導後、参加者は医師や看護師などファシリテーターのもとで体験を語り合い、語りを共有することで、多声的な「協働の学び」が得られるようにした。

(2)(1)の基礎的研究を踏まえ、新たな理論的フレームワークと方法論の開発を試みた(平成23年度)。

「ビジュアル・ナラティブを用いた三項関係」理論と方法論を下記の3つの観点から検討した。

- ・治療的三項関係: 医師-メディアム(m)-患者の三項関係
- ・医師教育の三項関係: 医師(経験者)-メディアム(m)-医師(新参者)の三項関係
- ・患者教育の三項関係: 患者(経験者)-メディアム(m)-患者(新参者)の三項関係

「ビジュアル・ナラティブを用いた三項関係」の理論と方法論に関する研究発表と学際的討論を行った。

第35回口蓋裂学会総会・学術集会や日本心理学会など、医学や心理学の関連学会で、医療場面における三項関係(並ぶ関係)の意義やビジュアル・ナラティブの方法論について研究発表し、学際的討論を行った。

ビジュアル・ナラティブに関する多様なメディアの資料収集と教育方法の探索。

斬新なアイデアを生み出すのに役立つフィールド・ワークを行って資料収集した。美術、映画、写真、漫画、ゲームなど多様なメディアをメディアム(媒介物)として用いる方法や、教育的ワークショップの方法を探究するため広い分野にわたって探索し、広範

な文脈と関連づけて考察した。

(3) 2年間の実践を集大成し、理論的・方法的検討を加えた(平成24年度)。

三項関係ミーディアムとして「病いの語り」にかんするイメージ画を用いた研究の具体的方法論を作成した。また、より具体的で役に立つ医療教育プログラムを提案し、ワークショップなどに使用する手順を考案した。さらに三項関係ナラティブのモデルを一般化して、医学関係学会や看護大学の講演やナラティブ研究会などで提案した。

治療的三項関係の作り方や医療教育に役立つワークショップ方法についての理論的・方法的検討を行った。本研究では、理論的には、次のような関係性をつくることが想定されていた。その関係性を実践に移すために、どのようにしたらよいか、医療教育に役立つワークショップの方法を具体的に構想した。

1) 治療的三項関係: 医師-ミーディアム-患者の三項関係。糖尿病の体験を、「過去」「現在」「未来」にわたって語る「病いの語りイメージ画」を作成する。「病いの語りイメージ画」を使って、糖尿病患者(経験者)は、自分自身の病いの体験を医師(経験者)に語る。医師と患者は、共に「病いの語りイメージ画」を見ながら互いに質問やインタビューを行い、ナラティブを共同生成する。同様の方法で、次の2つの関係性のなかでも使用できるような具体的方法論を策定した。2) 医師教育の三項関係: 医師(経験者)-ミーディアム-医師(新参者)の三項関係。3) 患者教育の三項関係: 患者(経験者)-ミーディアム-患者(新参者)の三項関係。

上記の3種類の三項関係ミーディアムのモデルを理論的・方法的に検討し、より一般的なコミュニケーション・ツールや医療教育プログラムとして役立てられるような三項関係ナラティブ・モデルを考案した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計23件)

やまだようこ(2013). ビジュアル・ナラティブと時空間 ころと文化(多文化精神医学会), 12, 48-53.(査読有)

やまだようこ(2013). 看護とナラティブ「並ぶ関係」で当事者の物語を聴く. 看護診断 18(1), 34-39.(査読無)

やまだようこ(2013). 子どもと母の関係イメージと人生の物語 多文化研究から. 子ども学研究(甲南女子大学), 14, 103-132.(査読無)

Yamada C., Moriyama K., Takahashi

E.(2012). Association between insulin resistance and metabolic syndrome risk factors in Japanese. Journal of Diabetes Investigation, 3(2), 185-190.(DOI: 10.1111/j.2040-1124.2011.00162.x)(査読有)

Yamada, C., Moriyama, K., Takahashi, E.(2012). Optimal cut-off point for homeostasis model assessment of insulin resistance to discriminate metabolic syndrome in non-diabetic Japanese subjects. Journal of Diabetes Investigation, 3(4), 384-387.(DOI: 10.1111/j.2040-1124.2012.00194.x)(査読有)

Yamada, C., Moriyama, K., Takahashi, E.(2012). Self-rated health as a comprehensive indicator of lifestyle-related health status. Environmental Health and Preventive Medicine, 17(6), 457-462. (DOI: 10.1007/s12199-012-0274-x)(査読有)

やまだようこ・村上幸平(2012). 老年世代の「私と子ども」関係イメージ 過去, 現在, 未来のビジュアル・ナラティブ. 京都大学大学院教育学研究科紀要, 58, 45-70.(査読有)

やまだようこ(2011). 「発達」と「発達段階」を問う 生涯発達とナラティブ論の視点から. 発達心理学研究, 22, 418-427.(査読有)

Yamada, C., Fujimoto, S., Ikeda, K., Nomura, Y., Matsubara, A., Kanno, M., Shide, K., Tanaka, K., Imai, E., Fukuwatari, T., Shibata, K., Inagaki, N.(2011). Relationship of homocysteine and homocysteine-related vitamins to bone mineral density in Japanese patients with type 2 diabetes. Journal of Diabetes Investigation, 2, 233-239. (DOI: 10.1111/j.2040-1124.2010.00088.x)(査読有)

Yamada, C., Mitsuhashi, T., Hiratsuka, N., Inabe, F., Araida, N., Takahashi, E.(2011). Optimal reference interval for homeostasis model assessment of insulin resistance (HOMA-IR) in a Japanese population. Journal of Diabetes Investigation, 2, 373-376. (DOI: 10.1111/j.2040-1124.2011.00113.x)(査読有)

山田千穂(2011). インクレチンの骨代謝調節作用. 日本臨床, 69, 842-847.(査読無)

山田千穂(2011). カロリー制限と長寿.

老年医学, 49, 899-902. (査読無)

Yamada, C., Mitsuhashi, T., Hiratsuka, N., Inabe, F., Araida, N., Takahashi, E. (2011). Impact of Insufficient Insulin Secretion on Subclinical Glucose Dysregulation. *Ningen Dock*, 25(6), 37-44. (査読有)

Yamada, C., Mitsuhashi, T., Hiratsuka, N., Inabe, F., Araida, N., Takahashi, E. (2011). Determination of the Optimal Cutoff Points for Obesity-related Measures of Metabolic Syndrome Based on Insulin Resistance. *Ningen Dock*, 25(6), 53-59. (査読有)

Yamada, Y. (2010). Visual image and narratives. *New Horizons of Academic Visual-Media Practices. Proceeding of 13th Kyoto University International Symposium*. 115-116. (査読無)

Yamada, Y. (2010). Image maps of life and the spiritual life cycle: Japanese, British, Austrian and French University Students visual narratives. *New Horizons of Academic Visual-Media Practices. Proceeding of 13th Kyoto University International Symposium*. 122-125. (査読無)

山田千穂・稲垣暢也 (2010). インクレチンの何がすごいのか? - インクレチンホルモンの基礎と糖尿病治療のパラダイムシフト 糖尿病の最新治療, 1, 111-113. (査読無)

[学会発表] (計 63 件)

Yamada, Y., Ieshima, A., & Urata, Y. (2012). Image drawing method about mother-child relationships: Visual narratives for qualitative research (1). *The 2nd Global Congress for Qualitative Health Research, Milan, Italy, 29 June, 2012*

Ieshima, A., Yamada, Y., & Urata, Y. (2012). What people learn from anime and manga as visual life stories: Visual narratives for qualitative research (2). *The 2nd Global Congress for Qualitative Health Research, Milan, Italy, 29 June, 2012*

Urata, Y., Yamada, Y., & Ieshima, A. (2012). Visualizing meaning-of-life narratives: Visual narratives for qualitative research (3). *The 2nd Global Congress for Qualitative Health Research, Milan, Italy, 29 June, 2012*

やまだようこ・黒江ゆり子 (2012). 看護とナラティブ 「並ぶ関係」で当事者の物語を聴く. 第 18 回日本看護診断学会

学術大会, 京都国際会議場, 2012 年 7 月 14 日 (招待講演)

木戸彩恵・浦田 悠・西山直子・安田裕子・家島明彦・やまだようこ・伊藤哲司・吉永崇史 (2012). 多文化横断ナラティブを生成継承する - 日本の質的研究の国際化に向け. 日本質的心理学会第 9 回大会, 東京都市大学, 2012 年 9 月 2 日

木戸彩恵・サトウタツヤ・今尾真弓・福田茉莉・安田裕子・谷口明子・やまだようこ (2012). 病いの語りとパーソナリティ. 日本パーソナリティ心理学会第 21 回大会, 島根県民会館, 2012 年 10 月 7 日

やまだようこ (2012). 現場に身をおいた質的研究法としての KJ 法の可能性と課題. 看護質的統合法 (KJ 法) 研究会第 4 回研究集会千葉大学大学院看護学研究科, 2012 年 4 月 27 日 (招待講演)

山田千穂・根上昌子・大塚博紀・鶴ヶ野しのぶ・近藤智雄・新井田奈美・平塚伸・三橋敏武・護山健悟・高橋英孝 (2012). インスリン抵抗性を中心にしたメタボリックシンドロームの脂質異常. 第 46 回日本成人病 (生活習慣病) 学会学術集会, 都市センターホテル, 2012 年 1 月 15 日

やまだようこ・田垣正晋・荘島幸子・麻生 武・斎藤清二・徳田治子・矢守克也 (2012). 質的研究の来し方と未来: ナラティブをめぐる. 多声対話シンポジウム, 京都大学, 2012 年 2 月 18 日

やまだようこ (2011). 国際ナラティブ・フィールドによる大学院生の教育. 京都大学グローバル COE 心が活きる教育のための国際的拠点 (2007 年度 - 2011 年度) 総括シンポジウム, 京都大学, 2011 年 12 月 11 日

南 博文・澤田英三・手塚千鶴子・濱田裕子・やまだようこ (2011). 不在のコミュニケーション - その後. 日本質的心理学会第 8 回大会, 安田女子大学, 2011 年 11 月 27 日

やまだようこ (2011). 「並ぶ関係」の医療ナラティブをめざして 質的研究をとおして考える. 第 35 回口蓋裂学会総会・学術集会, 新潟コンベンションセンター, 2011 年 5 月 25 日 (招待講演)

やまだようこ (2010). Models of life-span developmental psychology. 国際シンポジウム: 心理学, ケア, 文化, ベトナムと日本, ベトナム社会科学院, ハノイ, ベトナム, 2010 年 12 月 27 日.

やまだようこ・斉藤こずゑ・西山直子・戸田有一・家島明彦 (2010). ヴィジュアル・ナラティブ研究の方法論 イメージ画をもとに. 日本心理学会第 74 回大会, 大阪大学, 2010 年 9 月 20 日

原田満里子・家島明彦・やまだようこ・能智正博 (2010). 語りにおける当事者性(1) 語り手と聴き手がともに「当事者」であることは調査インタビューの場に何をもたらすのか. 日本心理学会第74回大会, 大阪大学, 2010年9月20日
山田千積・藤本新平・池田香織・野村由紀・松原亜海・菅野美和子・幣憲一郎・田中清・今井絵理・福渡努・柴田克己・稲垣暢也(2010). 糖尿病患者におけるビタミンB 栄養状態と血中ホモシステイン濃度、骨密度との関係. 第53回日本糖尿病学会年次学術集会, ラヴィール岡山(岡山県), 2010年5月29日
山田千積・野口直美・新井田奈美・稲辺富実代・三橋敏武・平塚伸・高橋英孝(2010). 人間ドック受診者におけるDisposition Indexの有用性. 第51回日本人間ドック学会学術大会, 旭川グランドホテル(北海道), 2010年8月26日
山田千積・野口直美・新井田奈美・三橋敏武・平塚伸・稲辺富実代・高橋英孝(2010). 肥満を重視したメタボリックシンドローム診断の試み. 第31回日本肥満学会, 前橋元気プラザ(群馬県), 2010年10月2日
山田千積・三橋敏武・平塚伸・稲辺富実代・新井田奈美・野口直美・高橋英孝(2010). 人間ドック受診者における主観的健康感と身体的な健康指標との関連. 第69回日本公衆衛生学会総会, 東京国際フォーラム(東京都), 2010年10月27日

〔図書〕(計14件)

やまだようこ(2013). ライフストーリー - 発達心理学事典 東京:丸善出版(印刷中).
やまだようこ(2013). ナラティブ(語り、物語) 認知心理学ハンドブック 東京:有斐閣(印刷中).
やまだようこ(2013). 質的心理学の核心, 質的心理学の歴史 やまだようこ他(編)質的心理学ハンドブック. 東京:新曜社(印刷中).
やまだようこ・麻生 武・サトウタツヤ・秋田喜代美・能智正博・矢守克也(編)(2013). 質的心理学ハンドブック 東京:新曜社.(印刷中)
やまだようこ(編)(2013). 多文化横断ナラティブ 臨床支援と対話教育. 京都:編集工房レイヴン.(総280頁)
やまだようこ(編)(2011). 質的心理学講座 第2巻 人生と病いの語り 東京:東京大学出版会.(総280頁)
やまだようこ(2011). 世代をむすぶ - 生成と継承. 東京:新曜社.(総344頁)

やまだようこ(2011). 不幸を転じるナラティブ - 東日本大震災「がんばろう」の語り. 子安増生・杉本 均(編)幸福感を紡ぐ人間関係と教育 京都:ナカニシヤ出版 pp.26-38.

やまだようこ(2010). ことばの前のことば - うたうコミュニケーション. 東京:新曜社.(総486頁)

やまだようこ・戸田有一・伊藤哲司・加藤義信(2010). この世とあの世のイメージ - 描画のフォーク心理学. 東京:新曜社.(総340頁)

6. 研究組織

(1)研究代表者

山田洋子(YAMADA YOKO)

立命館大学・衣笠総合研究機構・教授

研究者番号:20123341

(2)研究分担者

山田千積(YAMADA CHIZUMI)

東海大学医学部・講師

研究者番号:40464226